

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A 中学校)

毎朝、教員が生徒昇降口で、生徒に挨拶をするようにしている。教員が挨拶を交わし、生徒に気になる様子があった場合には、個別に声を掛けている。



授業支援ツールを利用して生徒が1行日記を書いており、夏季休業日中も生徒の様子を適宜把握することができた。夏季休業日の最終週に生徒が登校して教員と会い、心と体を学校になじませ、心理的負担を軽減して新学期を迎える準備ができるよう、働きかけた。

【取組 2】(B 中学校)

生徒会や各委員会が強化週間を決め、全校で様々な活動に取り組んだ。生徒会のユニセフ募金や挨拶運動は、生徒会役員が登校時間に合わせて生徒昇降口に立ち、生徒に呼び掛けを行った。給食委員会は、毎日の給食の準備に協力して取り組むよう声掛けを行った。第1学年学級委員会は、あったか言葉週間として、あったか言葉を言われた人の人数を集計し、人数分のシールを貼ることで、「あったか言葉の木」を育てるという取組を行った。

定期考査前は、生徒会の活動として自習教室を開室し、生徒同士が教え合って学習に取り組めるようにしている。回数を重ねるごとに参加者が増えている。



【取組 3】(C 中学校)

授業改善推進拠点校として「未来を切り拓く自走力の育成～探究心と学びを生み出す学習環境デザイン～」というテーマに沿って授業を行っている。生徒が主体的に発言する場面が多く、グループでの話し合い活動も活発である。教員が例示し、手順を視覚化することで、生徒が安心して制作したり発表したりすることができている。生徒が自分の得意なやり方で授業参加ができるよう配慮している。

【取組 4】(D 中学校)

夏季休業日中に校内研修会を実施し、国や東京都の不登校施策を学ぶ機会を作った。不登校生徒の夏季休業日中の様子や新学期を迎えるにあたっての配慮事項なども全教員で共有し、改めて生徒理解を深め、対応を考えることができた。

不登校対応巡回教員連絡会で得た情報も、校内委員会で周知している。



②東京都教育委員会の「不登校の未然防止」のためのキーワードは？

登壇所づくり
教職員が主導して、学校や学級を全ての児童・生徒にとって落ち着ける場所にする。

きずなづくり
児童・生徒が主体となり、日々の授業や行事などで、全員が活躍し、互いが認められる場や機会があること。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（D中学校）

支援会議では、生徒情報の共有だけではなく、手だての検討と実施後の変容を共有し、ケース検討をしている。SCやSSWも同席し、多面的な協議ができています。2学期の始業式の日にも支援会議を設定し、夏季休業最終週に実施した生徒へのアンケートの結果や、新学期初日の生徒の様子を共有し、支援策を検討しました。

アウトリーチによる支援（C中学校）

支援会議で方針を共有し、頻度やねらいを明確にしてから家庭訪問の計画を立てた。学級担任と一緒に定期的に家庭訪問を実施し、配布物やメッセージカードを渡し、人間関係を構築した。東京都のバーチャル・ラーニング・プラットフォームも活用し、学級担任とSSWが生徒と一緒にチャットをして交流することができるようになった。

校内別室における支援（A中学校）

年度当初に校内別室の環境整備を行い、校内別室支援員と共通理解を図るために文書を作成した。ホワイトボードを効果的にレイアウトし、生徒が他者の視線を気にせず過ごせる空間を作った。研修会などで得た情報や資料を特別支援教育コーディネーターと共有して協議し、校内別室で利用する記録用紙や校内別室の利用状況を記入するホワイトボードなどを改良した。



デジタル機器を活用した支援（B中学校）

授業支援ツールを活用して、毎日時間割を周知しオンラインで授業を視聴できるようにしたり、授業で使用する教材や合唱コンクール期間の練習の様子などを生徒と共有したりして、学びの保障と所属感の向上につなげた。学校からの配布物をデジタルでも配信することで、情報が行き届くようにしている。

関係機関との連携（C中学校）

SCやSSW、子育て世代包括支援センターなどと連携し、面談を実施したりケース検討をしたりして、今後の方針を共有し、役割分担をして支援した。
学区内の小学校の校内別室を視察し、運営状況や児童の様子を見学した結果を中学校の支援会議で周知し、教員の生徒理解を深めた。

成果

巡回担当校グループ内で、1学年で新たに不登校となる生徒が減少し、初期対応を丁寧に実施したり関係機関と連携して重層的に支援したりした成果が表れている。

課題

小学校で不登校だった児童が安心して中学校に進学できるよう、より一層小・中連携を進め、丁寧に引き継ぐことが必要である。